2024年10月号
（公財）札幌市公園緑化協会　旭山記念公園管理事務所

アカゲラ通信

エゾシカが旭山記念公園でも見られるようになった

　エゾシカは、2016 年頃から公園内で見られ始め、2020 年代に入ってからは頻繁に見られるようになりました。今回はエゾシカのお話です。下の写真はすべて旭山記念公園内で撮影したものです。

●エゾシカはユーラシア大陸東部と日本に生息するニホンジカの亜種のひとつで、その中では最も体が大きい亜種であり、体重は雄で 150kg、雌で 100kg ほどになります。

●体色は雌雄とも、夏は鮮やかな橙色に白の水玉模様、冬はこげ茶色になります。雌はお尻の周りの白い毛が盛り上がってハート形に見え、お尻を上げてピョンピョン跳ねることがあります。

●雄の角は春に抜け落ち、「袋角」と呼ばれる柔らかい角が生え、秋に固くなります。角の分岐が前年生まれはまっすぐ（０）、2 年前 1 か所、3 年前 2 か所、4 年より前の 3 か所と増えてゆきます。

●エゾシカは夏の間は雌と 1 歳未満の子どもが群れで暮らし、雄は基本的には単独で過ごし冬に群れになります。夏の間に雄だけ、もしくは雌と子どもだけでしか見られないのはそのためです。雄の子どもは 1 歳を過ぎると雌の群れから離れます。

●エゾシカはハレムを築いた雄が多くの雌と交尾しますが、乱婚制であるともいわれています。

●奥山に紅葉踏みわけ鳴く鹿の声きく時ぞ秋は悲しき　小倉百人一首の猿丸太夫作のあまりにも有名な和歌ですが、エゾシカは秋になると「ピョオーオーッ」と大きくて悲しげな声で鳴きます。

　これは「ラッティングコール」と呼ばれ、雄が繁殖期に雌を求めて鳴く声です。旭山でも聞くことができますが、慣れていないとちょっと驚くほどに大きな音です。

●エゾシカは通常人を襲うことはまずないですが、繁殖期の雌や雄が人を攻撃する事例がごくごく稀に発生しています。基本的には警戒心が強く、人の気配を感じるとすぐに逃げます。

●ただし、車との接触・衝突にはくれぐれもお気を付けください。旭山では今のところその事例はないですが、夕方から夜にかけて道路に出て来て当たる可能性はあります。エゾシカと衝突するとボンネットがへこんだり、フロントガラスが割れたり、乗っている人がケガをする恐れがあります。

●1879 年 3 月に「エゾシカ大量死」が起こりました。道内の広い地域が、2 月下旬に 3 日間の大雪、3 月上旬に 3 日間の暴風雨に見舞われ、寒さに耐えられず疲弊したエゾシカが大量死、その数は約 30 万頭ともいわれています。さらには乱獲もあり、20 世紀前半には絶滅寸前に追いやられました。

●しかし 1950 年代以降数が回復、1990 年代に爆発的に増え、今では全道で約 65 万頭が生息すると見られています。近年では農林業への被害拡大を防ぐために捕獲による頭数規制が行われています。

レストハウス「ぽるく」2024年10月

皆様いかがお過ごしでしょうか？
旭山記念公園レストハウス【ぽるく】です。
暑さも和らいできて風が気持ちいいこの頃ですね。
【ぽるく】ではショップにハロウィンの装飾をして
皆様のお越しをお待ちしております。
新商品の「黒千石大豆きな粉ラテ」で
ホッ！　と一息温まってください。
【トリックオアトリート～】

旭山野鳥メモ 64 ハチクマ

ハチクマ　Oriental Honey-Buzzard *Pernis ptilorhynchus*　タカ目タカ科

夏鳥。人気（ひとけ）がない山地で繁殖。道内ではさほど珍しくないが人目に触れる機会は意外と少ない。虹彩が雄は暗色系で雌は黄色。

9 月 14 日の定例野鳥観察会の際に森の家上空に現れ、ハシブトガラスにモビングされながらも 10 分近くじっくりと観察することができた。

観察会でハチクマが出たのは初めてだが、園内でかつて今回ほど間近に見られたという話も聞いたことがない。その数日前には三角山でも見られていたとの情報があるが、同一個体かどうかは不明。

ハチクマは例年 9 月後半に南に渡る。これまでの旭山での観察記録はみな秋の渡りに向かう途中に一瞬だけ現れた通過個体。旭山では春の渡りの時期には現時点で未記録。

ハチを食べるクマタカのような鷹が名前の由来。クマタカより羽が長く、首がペン先のように細長く突き出ている。その名の通り蜂の巣を襲って幼虫や蛹を食べるが、羽根が蜂に刺されにくい構造になっている。

繁殖期のディスプレイフライトでは、翼を背中側に高く上げたまま打ち付けて急降下する行動が見られる。

室蘭の地球岬で秋の渡りを見ることができる。国内には長野県や福岡県等に渡り観察の名所がある。

日本列島を南下し縦断、中国に入りさらに東南アジアやインドまで移動して冬を過ごす。一方、春は中国東沿岸から内陸部を北上、朝鮮半島経由で日本に入り、国内で拡散してゆく。春と秋で渡りのルートが違う。

前年に生まれた幼鳥は渡りをせずに翌年の春まで越冬地に留まるため、日本では前年に生まれた幼鳥を見ることはない。ユニークで興味深い生態がいろいろと分かってきている。来年は要注目の野鳥だ。

2024年10月の野鳥トピックス

- **シマエナガ**：ほぼ毎日出ており同じ場所に留まることもあります
- **クマゲラ**：夏以降園内に来る頻度が高くなっています
- **ヤマゲラ**：9 月下旬から「ピョッピョッピョッ」と鳴きだしました
- **シメ**：数羽の群れが見られるようになってきました
- **アオジ**：夏にはいなかったのが 8 月以降しばしば見られています
- **ウグイス**：笹薮で「ヂッ　ヂッ」と鳴き時々姿も見られます
- **メジロ**：アズキナシの実に集まるようになってきました
- **ミヤマカケス**：秋に山から降りて来ますが今年はまだ観察されていません（来ない年もあります）

旭山生き物ミニ図鑑2024年10月

今月も胡桃をくわえたエゾリス

クマゲラ♂今秋は観察機会多め

ヒヨドリ幼鳥頭部の羽が短い

ニホンカナヘビ幼体

エゾノコンギク自生種

ネバリノギク外来種

ハイイヌガヤ種子

ツリバナ種子

公式サイト

「アカゲラ通信」　第１３２号　　２０２４（令和６）年１０月４日発行
（公財）札幌市公園緑化協会　旭山記念公園管理事務所
https://www.sapporo-park.or.jp/asahiyama/　　〒064-0943　北海道札幌市中央区界川４丁目
電話 011-200-0311（金・土・日・祝日 10 時～16 時）FAX 011-200-0351